

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870800202
法人名	医療法人康雄会
事業所名	グループホームレオナ
所在地	愛媛県四国中央市金生町下分1423
自己評価作成日	平成23年7月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年8月4日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>地域の方との交流を大事にしている。外出の機会を多く取り入れている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は、方言を交え、ざっくばらんに利用者に話しかけておられ、利用者が気持ちを率直に表せるようかかわっておられる。利用者が「今日はいい天気やね」と言われる時には「外出したい」ということが多く、職員から外出先を提案する等、利用者が意欲的に活動できるようにかかわっておられる。 調査訪問時は、利用者がおにぎりを作ってくれて、食後にはエプロンを着けて、洗い物をされている様子もみられた。杖を2本突きながら台所に入り、調理台等を伝って流し台まで行き、洗い物をしている利用者もみられた。 家族も誘い自動車を利用してデパートに行かれたり、船に乗って小豆島に渡ることもある。夏場、利用者にあせもが出来た時には、温泉に出かけたり、海に浸かってみられることもある。又、夏の暑い時には、大野ヶ原に涼みに行かれた。外出する機会が多いことは、この事業所の特徴でもある。</p>
--

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームレオナ

(ユニット名) 2階ユニット

記入者(管理者)

氏名 森実恵子

評価完了日

平成23年7月1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 入所者の入れ替りもあり 入所者と共に理念を新しく作成 したいと思う。よりよく実践につながるように話し合う機会を作 る。	
			(外部評価) 「自分らしく生きていく」と事業所の理念を作成して、パンフ レットに示し、事務室にも掲げておられた。職員は、理念を意 識して個々に日々の取り組みと照らし合わせるようにされて いる。事業所は、職員の利用者への日々の言葉かけや年間 を通しておもしろい行事を企画されて、「笑い」のある暮らし 作りに取り組んでおられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 天気のよい日は 散歩に出掛け 近所の同年代の方と会っ て挨拶したり ホームに遊びに来てくださいと声を掛ける。訪 問された時は談話しながら 一緒にお茶を飲む。	
			(外部評価) 地域の傾聴ボランティアの方が毎週土曜日に来てくださり、 利用者のお話を聞いてくださっている。近くの保育園の園児 がひな祭りに来てくれた際には、職員が台本や衣装を手作り して、園児に交通安全をテーマにしたアンパンマンの劇を披 露された。レオナ新聞は、利用者が利用する散髪店やかか わりのある地域の方達にお配りしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 家族の方の悩み相談に応じられる、対応を受け付けている。 高齢者の方の一人暮らしの方の近所を散歩のコースに取り 入れ 外に出ていたら ホームの訪問を促す。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>話し合いをこまめに行い 見直して サービス改善に活用している。色んな方の意見はとても参考になっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議時には、母体医療機関の院長も出席され「骨折について」等の講義をしていただいたり、職員が受講した外部研修の内容を報告され、その話題にも沿い、事業所での取り組みをお話して参加者と意見交換をされている。時には、夏祭りや忘年会等の行事と合わせて会議を行ってられる。</p>	
5	4	<p>市町村との連携                      市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>わからないことがあれば 市役所窓口にお問い合わせすることもある。キャラバンメイトにも参加している。市の講習会にも参加している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時、事業所行事の報告を行った際には、市の担当者の方が「行事が密で、利用者・ご家族、地域の方達を巻き込んで行っていることが素晴らしい」とほめてくださったようだ。又、「ケーブルテレビに事業所行事の情報を提供してはどうか」ということも提案していただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践                      代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束しないケアの大切さを 職員全員が理解している。歩行困難の方には 居間で過ごして目の届く範囲内で 拘束しないように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ベッドからずり落ちる恐れのある利用者には、ベッドの足元にマットを置く等、事故につながらないよう工夫をされている。又、居室にじゅうたんや畳を敷いて、できるだけ骨折しにくいようにされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			高齢者虐待について 理解ができるように掲示し 話し合いをしている。月例会でも 職員間で話し合う機会を持っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			現在いないが 必要があれば話し合う機会を持つと思う。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			家族と話し合う機会を持ち わからないことは納得できるように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			不満や苦情は 利用者家族の意見を聞き 運営に反映している。傾聴ボランティア、ふれあい相談員など すすめている。	
			(外部評価)	
			ご家族の来訪時には「何でも些細なことでも言ってください」と、ご家族に伝えておられる。レオナ新聞には、職員が研修を受けたことのご感想を載せたり、事業所の取り組みを載せておられ、ご家族からは「職員がどのようなことをしているのかが分かる」と感想をいただいた。行事の際にはご家族も参加され、利用者と一緒に楽しまれ、後片付けを手伝ってくださる方もいる。調査訪問時には、ご家族がご自宅でできたスイカを持って、利用者にご会いに来られている様子がうかがえた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の話し合い、レクレーションの反省会など 月例会、親睦会などで意見交換している。	
			(外部評価) 職員同士のチームワークがよく、外出する際には、休みの職員も、時には出て来られ、一緒に楽しめる。又、毎月の親睦会や職員でバーベキューを行った際には、法人代表者から肉の差し入れがあったようだ。職員の中には、事業所内で結婚式を挙げた方がおられ、その際、ウェディングドレスを作り、テーブルをセッティングして食事も手作りして、利用者と一緒に祝いされた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向け支援している。地域講習会にも参加している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加できる機会を確保している。希望の研修などにも参加する機会もある。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他のグループホームへの訪問をしたり 行事などに案内するように取り組む、参加して頂く場合もある。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 職員と利用者が2人で話し合いを持つ。日常生活の中で表情などを見て 不安などを解消できるように 努めている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者だけでなく 家族参加など 話しやすい環境作りに努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者のできることを見極め 家族とも話し合い 職員間でも話し合い支援に努めている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員は 共に過ごす時間の中で 関係を築いている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>行事イベントなどの参加は出来る限り 家族に参加して頂き 共に支えていく関係をつくっている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>散歩中に馴染みの人との交流が出来ている。散歩コースも考えている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>事業所の近くから入居された利用者がほとんどであり、お友達や知り合いの方がよく訪ねて来てくださっている。調査訪問時、事務室の電話でご家族とお話をしている利用者がおられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士 出来る事を見極めて 努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 終了しても 年間行事などの参加や 散歩などで 会う機会があれば 声かけし「ホームに遊びに来て下さいね」と言う。ホームに来られ 一緒に 皆で お茶をすることもある。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話の中で 今までの生活を話し 家族の面会時などに情報を得ている。	
			(外部評価) 職員は、方言を交え、ざっくばらんに利用者に話しかけておられ、利用者が気持ちを率直に表せるようかかわっておられる。利用者が「今日はいいい天気やね」と言われる時には「外出したい」ということが多く、職員から外出先を提案する等、利用者が意欲的に活動できるようにかかわっておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人の生活暦 今まで使っていた生活小物などを置き 今までの生活が変わらぬように また家族との会話での情報を得て 努めちえ入る。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 健康状態の把握 生活リズム行動や動作から感じとっている。職員全員が申し送りや口頭で話し合っている。介護日誌にも目をとおしている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の生活を安心して暮らしてもらえるように 面会時の家族からの話の中で アイデアをとりいれることがある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>日々、現場で利用者にかかわっている職員で話し合い、介護計画を作成されている。時には、利用者も参加して、意見を聞くこともある。計画の中の「解決する課題」には、利用者の言葉がそのまま記入されていた。ご家族には介護計画を送付してご本人の暮らしへの希望を記入してもらおうようになっている。</p>	<p>利用者個々の社会性や個性、得意なこと、又、これまでの生活歴等を十分に採り入れて、利用者個々の生活が広がるように支援を工夫していかれてほしい。又、利用者にかかわる人がチームで利用者を支えていくような計画や、ご家族にも分かりやすい計画の作成に努めていかれてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>気付いた事は 個別に記録し 職員同士で話し合っている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人や家族の希望状況を取り入れ 支援している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の生活の中で 心身共に豊かな暮らしができるように支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 家族、本人の希望を大切にしながら 医療を受け入れるようにしている。医療との連携も整っている。	
			(外部評価) 隣接の母体医療機関の医院長が利用者に合わせて往診に来てくださっており、体調変化等、事業所から連絡すると来てくださるようになってきている。又、近くの歯科医で診てもらう際には、職員が同行されたり、皮膚科等にはご家族が付き添われている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師に相談に乗ってもらえるように関係を築き 連携がとれている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時は 定期的に訪問し 病院関係者との話し合いを持ったりしている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末については 入所時に話し合いをしている。家族との面会時などに話し合う。	
			(外部評価) 利用者が入院した場合は、職員がお見舞いに行きご本人を励まされたり、退院して事業所に戻って来られたら、食事はゆっくり時間をかけて支援されている。利用者は「ホームで最期まで居る」と思っておられるようで、又、ご家族も「最期までお願いしたい」と希望されている。この一年間では、看取りで支援された例もある。食がだんだん細くなってきて、ご家族がご本人のお好きなお寿司を買って来られたり、好物のラーメンを職員が用意された。点滴を施す時間はご家族が付き添われたり、職員はご本人に再々声をかけ、又、利用者も居室を訪ね、みなで看取られた。利用者が最期に、職員に「ありがとう」と、お礼を告げられたことに職員は感動されていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命講習を受講している。応急手当 初期対応を実践している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進会議などを通して話し合っている。定期的な訓練を実施し 地域の協力体制も整っている。	
			(外部評価) 運営推進会議時、火災時の対応について話題に上がった。隣の住人の方は、職員が事業所から「おーい」と呼ぶと、駆け付けてくれることになっている。避難訓練時には、消火器の設置場所を確認されたり、自主的に消火器の数を増やされた。	事業所は、建物の2階に位置し、又、介護度が重度の利用者も多くいることから、今後さらに、いざという時慌てず対応できるように、避難訓練の機会を増やしていかれてほしい。夜間や地震等、いろいろな場面を想定した訓練を重ね、利用者、職員の安全や安心につなげていかれてほしい。
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 誇りやプライバシーには特に気をつけている、その人に応じた声かけを行っている。	
			(外部評価) 職員は利用者の行動や気持ちにできるだけ手や口を出さず見守ることを心がけ「自分でできること」を大切に支援されている。職員は、利用者に対して、気さくに付き合っておられ利用者同士がけんかをした時には、職員が仲に入って、それぞれの意見を聞き、利用者の行為を叱ることもあるようだ。利用者から「〇〇さん」と呼ばれると、先生と呼ばれているようだから「おばば」でも「おばあ」とでも呼んでほしい」との要望があったようで、現在、職員は利用者のことを「ばあちゃん」「おばちゃん」「じいちゃん」「～ちゃん」と呼んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人家族の想いを聞き入れ 職員間で話し合い 実施している。1対1で話し合う場合もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) まず利用者の意見を尊重し 話し合い時に その中での話題作りをする。できない利用者に対しては職員が声かけをし輪にはいれるようにする。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 以前から利用している美容室を利用している方もいる。外出にて利用できない方は 美容師が訪問してくれ散髪してくれる。職員がメイクの手伝いをする。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 何か食べたいか テレビを見ていて決まる事もある。調理を手伝ってくれたり 片付けも分担して行っている。ナマモノに関しては 外食し 食を楽しんでいる。	
			(外部評価) 食べたいものを利用者に相談しながら献立を決め食事作りされたり、食欲がわかないような時には、ファミリーレストラン等で外食することもある。レストランのメニューからご自分のお好きなものを選んで食べると食欲も湧くようである。夕食は、5時からとなっているが、利用者が「後で食べたい」と言われるような時には、希望に応じておられる。夜間おなががすく方には、バナナやカステラ等を夜食にされている。移動パン屋が来てくれるようになっていて、お好きなパンを選び、おやつにしたり、翌日の朝食に食べることもある。宅配の牛乳を取っている方も多い。調査訪問時は、利用者がおにぎりを作ってくれて、食後にはエプロンを着けて、洗い物をされている様子もみられた。杖を2本突きながら台所に入り、調理台等を伝って流し台まで行き、洗い物をしている利用者もみられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 記録に応じた食事量 水分量を一人一人に支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食時 歯磨き 夕食後は入れ歯をポリドントにつける。マッサージを行う。外出時には イソジンガーグルでウガイをする。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) オムツを使用している方も排泄パターンをつかみ トイレにて排泄ができるように誘導している。 (外部評価) 利用者が、ご自分でパットを替える方は、職員が後からそつと確認されている。トイレトーパーを居室に持ち帰るような利用者もあり、ペーパーは、洗面所の引き出しにしまっているユニットもある。職員がその都度取り出したり、利用者によっては引き出しからご自分が出して、トイレで使用されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便記録をつけている。体操、歩行訓練、電動バイクなど。牛乳、ヨーグルト、黒酢も飲用している。食事なども気をつけている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 定期的に入浴を実施している。夜間 よく眠れるように夕方入浴している。時には アロマなども利用し リラックスしてもらえるようにしている。 (外部評価) 毎日入浴したい利用者や一日のうちでも何度も入浴を希望する利用者もいるため、事業所では、入浴は、曜日や時間を決めておられる。その日が嫌な利用者は、次の日に入浴できるよう声をかけておられる。	さらに、入浴は利用者の楽しみの一つでもあり、利用者それぞれの入浴の習慣や好みを十分に反映させた支援が期待される。この機会に、利用者個々が入浴を楽しめるような、さらなる工夫について職員で話し合ってみてはどうだろうか。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 気持ちよく安眠してもらえるように 体操やカラオケを日中に取り入れている。夜間 眠れない人には 話を聞いてあげたり アロマを個室に置いて 安眠できるように雰囲気をつくっている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 用法や用量は指示をうけた時に説明を受けている。症状が変化の時には主治医に指示を仰げるように支援している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事全般的なことは 日々の活動の中に取り入れている。カラオケや花の水遣りなど 本人の好きな事ができるように支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気のよい日は散歩にでかけたり戸外にドライブにでかけ食事したり 公園などで楽しむこともある。県外への小旅行へ行く事もある。	
			(外部評価) 香川のお寺をお参りに行かれた際には、地元の保育園の園児とふれあい、後日、その時の写真をお送りしたら、園児の作品やお礼の手紙をいただき、廊下に貼っておられた。ご家族も誘い自動車を利用してデパートに行かれたり、船に乗って小豆島に渡ることもある。夏場、利用者にあせもが出来た時には、温泉に出かけたり、海に浸かってみられることもある。又、夏の暑い時には、大野ヶ原に涼みに行かれた。外出する機会が多いことは、この事業所の特徴でもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理できる方には自分で買い物ができるようにしている。管理できない方はその場で お金を手渡して 自分で買った物は 自分で支払うという支援をしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙は難しいが 年賀状や暑中見舞いは 本人の希望にそって 出せるように支援している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>季節を取り入れて 季節に関係したものを工夫したり飾ったりしている。自然な光を取り込めるようにしている。季節の草花もベランダに植えている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「紙まつり」に出展した作品は入賞して、作品や賞状が飾られていた。お重や食器等の昔の生活用品や外出時に取って来た木やかずらをアレンジして、植物を育てたり、花を生けたりして活用されており、時には、ご家族が昔の道具等をゆずってくれることもある。又、色のついた用紙を使って季節に合わせて朝顔やひまわり、金魚等を作りレイアウトして、壁一面、色とりどりに飾られていた。調査訪問時、3階ユニットの利用者の方が2階ユニットの利用者を訪ねて来られ、ソファに座って一緒にテレビを見たりおしゃべりを楽しんでおられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>冬場は コタツの中で座って カラオケを楽しむなど コミュニケーションをとれるようにしている。ソファは常時置いていて 座れるようにしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>自宅で使っていた家具を持ってきてもらっている。また 本人の花や植物なども外出時に買って飾っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ベランダで植物を育てておられたり、個々にベランダに洗濯ものを干しておられる。ご家族の写真や人形等、それぞれに持ち込まれている。調査訪問時、窓を開け、出入り口も開放して風通しを良くして、ベッドの端に足を上げて横になり休んでいる利用者がみられた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>廊下 浴槽のてすりを使用している。浴槽には滑り止めマットを使用し 滑り止め防止に努めている。マッサージや足の運動をし 足腰を鍛える事により 転倒防止に努めている。</p>	